

2017年告示保育所保育指針からみる乳児保育における愛着形成に関する支援

鹿児島純心女子大学大学院 井上 祐子

和文要旨

本研究は、乳児保育とボウルビーが提唱した愛着行動との関係について整理し、乳児保育における愛着形成に関する支援について検討することを目的とした。方法は、2017年告示保育所保育指針、及び保育所保育指針解説を用いて、文献研究を行った。この結果、乳児保育における愛着形成に関する支援として、乳児保育と、乳児期の愛着行動である定位行動、発信行動、及び接近行動との関係を明らかにした。以上の結果は、保育者養成において学ぶ学生が、乳児保育における愛着形成に関する支援について理解を深めるための一助になることを示唆するものである。

キーワード：2017年告示保育所保育指針 保育所保育指針解説 愛着行動 乳児保育 愛着形成

I. 序論

保育所等において乳児保育に対する需要が増大している。保育所等関連状況取りまとめ¹⁾ (厚生労働省2015：厚生労働省2016：厚生労働省2017a：厚生労働省2018a：厚生労働省2019)によると、年齢区分別の保育所等利用児童の割合(保育所等利用率²⁾³⁾について、0歳児は年々増加しており⁴⁾、2017年に告示された保育所保育指針(以下、「保育指針」という)では、新たに「乳児保育」の区分が示された。

このように乳児保育の重要性は増す一方であるが、少子化等の社会構造の変化から、乳児と触れ合う経験が乏しいまま保育者となる学生が増えてきている。保育実習中の学生の乳児保育体験に関する先行研究(小屋2010)では、乳児とのコミュニケーションのとり方、接し方の難しさについて学生が困惑している状況が指摘されている。乳児期は、発達の諸側面が未分化であるため、言語によるコミュニケーションが難しい時期である。その一方で、保育所保育指針解説(以下、「保育指針解説」という)では、乳児期の保育について、子どもは身近にいる特定の保育士による愛情豊かで受容的・応答的な関わりを通して、相手との間に愛着関係を形成していくと記されている(厚生労働省2018b)。愛着とは、保護者や特定の保育

者と乳幼児の間にある、相互的な絆のことである。提唱者であるボウルビーは、乳幼児期に愛着を形成することが、子どもの人格形成に大きな影響を与え、乳児は生まれながらに親の養育行動を誘う愛着行動をとることを明らかにした。

上記のように、乳児保育の重要性の高まりとともに、乳児と触れ合う経験が乏しいまま保育者となる学生が増える中、乳児保育において未分化である発達の諸側面に配慮した援助、特に乳児保育における愛着形成に関する支援について研究を蓄積していくことは喫緊の課題と考えられよう。

そこで、本研究は、より実践力のある保育者養成の一助となることをねらいとして、乳児保育における愛着形成に関する支援について検討することを目的とする。

II. 方法

保育指針 第2章保育の内容1乳児保育に関わるねらい及び内容(厚生労働省2017b:17-23)、及び保育指針解説(厚生労働省2018b:112-114)をもとに、ボウルビーが提唱した愛着行動(Bowlby=1991:290-297)との関係を整理する。なお、保育の内容については、保育指針に記されている附番をそのまま引用する。

愛着行動について、ボウルビーは発達過程を4

段階に区分した。第1段階では生後3か月までは人体弁別はせず、第2段階では生後6か月頃から人を区別して愛着行動をみせるようになるとした。第3段階では、生後6か月頃から2、3歳にかけて特定の人物に対する愛着が明確化し、人見知りや後追い行動をするようになるとした。第4段階では、2、3歳以降になると認知能力が発達するため、愛着の対象者と少し離れても安心して過ごすことができるとした。

本研究では、乳児保育における愛着形成に関する支援について検討することから、児童福祉法第4条における乳児の定義に基づき、上記4段階のうち、乳児期に該当する第1～3段階においてみられる愛着行動に着目することにする。

なお、倫理的配慮として、「日本社会福祉学会研究倫理指針 第2 指針内容 A 引用」に基づき、先行業績の検討に際しては、現著者名・文献・出版社・出版年・引用箇所を明示し、自説と他説との峻別を行った。

III. 結果

愛着行動について、ボウルビーは愛着性を媒介する行動の型として、定位行動、発信行動、接近行動の3つを示した。定位行動とは、養育者がどこにいるのかを確認する行動のことであり、例として、目で追う、声を聞いて声のした方を向く等、があげられる。発信行動とは、養育者を子どもの方へ引き寄せる行動のことであり、例として、泣く、微笑、喃語等があげられる。接近行動とは、能動的に養育者へ接近することであり、例として、探し求める、後を追う、しがみつく、非食事的吸

引等があげられる (Bowlby=1991:290-297)。

以下に、保育指針及び保育指針解説をもとに、ボウルビーが示した愛着性を媒介する行動の型との関係について整理した内容を記す。

III-1. 定位行動に対する、乳児保育における愛着形成に関する支援

保育指針 (厚生労働省2017b:17-23) において、定位行動とかわりのある内容は「①子どもからの働きかけを踏まえた、応答的な触れ合いや言葉がけによって、欲求が満たされ、安定感をもって過ごす。」であった。

この内容に関して、保育指針解説 (厚生労働省2018b:112) では、「話しかける大人の顔をじっと見つめる」「人の声に最もよく反応する」といった乳児からの働きかけが示されていた。これらに対し、保育者の援助として「ゆったりと笑顔で働きかける」「触れ合う (スキンシップ)」「子どもの声や行為に言葉を添えていく」「タイミングよく応えていく」といった応答的な触れ合いや言葉がけがあげられており、こうした援助によって乳児は、「自分の欲求を泣き声で表すようになる」「感情を込めて様々な泣き方をするようになる」「自分のしてほしいことが受け止められ、心地よくなえられると安心する」「欲求をかなえてくれた人に対する信頼感が育まれる」「心の安定につながる」「肌の触れ合いの温かさや心地よさを実感すると、自ら手を伸ばし、スキンシップを求めるようになる」という経験をし、欲求が満たされる安定感をもつことにつながるとされていた (表1)。

表1 定位行動における、乳児保育における愛着形成に関する支援

愛着行動		乳児保育における愛着形成に関する支援		
行動	例	乳児の状況	保育者の関わり	保育者の関わりが乳児に及ぼす影響
定位行動	目で追う	話しかける大人の顔をじっと見つめる。	・ゆったりと笑顔で働きかける。 ・触れ合う (スキンシップ)。	・自分の欲求を泣き声で表すようになる。 ・感情を込めて様々な泣き方をするようになる。 ・自分のしてほしいことが受け止められ、心地よくなえられると安心する。

<p>声を聞いて声のした方を向く</p>	<p>人の声に最もよく反応する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの声や行為に言葉を添えていく。 ・タイミングよく応えていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・欲求をかなえてくれた人に対する信頼感が育まれる。 ・心の安定につながる。 ・肌の触れ合いの温かさや心地よさを実感できる。 ・自ら手を伸ばし、スキンシップを求めようになる。
----------------------	----------------------	---	---

筆者作成（資料）①保育指針解説（厚生労働省2018b:112）、②母子関係の理論Ⅰ 愛着行動（Bowlby=1991：290-297）。

Ⅲ-2. 発信行動に対する、乳児保育における愛着形成に関する支援

Ⅲ-2-①. 「泣く」という発信行動に対する、乳児保育における愛着形成に関する支援

保育指針（厚生労働省2017b:17-23）において、「泣く」という発信行動とかかわりのある内容は「①子どもからの働きかけを踏まえた、応答的な触れ合いや言葉がけによって、欲求が満たされ、安定感をもって過ごす。」であった。

この内容に関して、保育指針解説（厚生労働省2018b:112）では、「自分の欲求を泣き声で表す」「感情を込めて様々な泣き方をする」といった乳児からの働きかけが示されていた。これらに対し、保育者の援助として「子どもの欲求を汲み取り、タイミングよく応えていく」「触れ合う（スキンシップ）」といった応答的な触れ合いや言葉がけがあげられており、こうした保育者の援助によって乳児は、「自分のしてほしいことが受け止められ、心地よくなえられると安心する」「欲求をかなえてくれた人に対する信頼感も育まれる」「心の安定につながる」「肌の触れ合いの温かさや

心地よさを実感すると、自ら手を伸ばし、スキンシップを求めようになる」という経験をし、欲求が満たされる安定感をもつことにつながるとされていた（表2）。

また、保育指針解説（厚生労働省2018b:113-114）にて示された「初めて会った人や知らない人に対して泣くなど、人見知りをするようになる」といった乳児からの働きかけも「泣く」という発信行動にあたる。これらに対し、保育者の援助として「愛情を込めて受容的に関わる」といった応答的な触れ合いや言葉がけがあげられていた。こうした保育者の援助によって乳児は、「愛情を込めて受容的に関わる大人とのやり取りを盛んに楽しむようになり、そうした大人との間に形成された愛着関係が更に強まる」「この絆を拠りどころとして、徐々に周囲の大人に働きかけていくようになる」「特定の保育士等との安定した関係を基盤にして、次第に他の子どもに対しても関心をもつようになる」という経験をし、欲求が満たされる安定感をもつことにつながるとされていた（表2）。

表2 「泣く」という発信行動に対する、乳児保育における愛着形成に関する支援

愛着行動		乳児保育における愛着形成に関する支援		
行動	例	乳児の状況	保育者の関わり	保育者の関わりが乳児に及ぼす影響
発信行動	泣く	・自分の欲求を泣き声で表す。	・子どもの欲求を汲み取り、タイミングよく応えていく。 ・触れ合う（スキンシップ）。	・自分のしてほしいことが受け止められ、心地よくなえられると安心する。 ・欲求をかなえてくれた人に対する信頼感も育まれる。 ・心の安定につながる。 ・肌の触れ合いの温かさや心地よさを実感できる。 ・自ら手を伸ばし、スキンシップを求めようになる。
		・感情を込めて様々な泣き方をする。		
		・初めて会った人や知らない人に対して泣くなど、人見知りをするようになる。	愛情を込めて受容的に関わる。	・愛情を込めて受容的に関わる大人とのやり取りを盛んに楽しむようになり、そうした大人との間に形成された愛着関係が更に強まる。 ・この絆を拠りどころとして、徐々に周囲の大人に働きかけていくようになる。 ・特定の大人との安定した関係を基盤にして、次第に他の子どもに対しても関心をもつようになる。

筆者作成（資料）①保育指針解説（厚生労働省2018b:112-114）、②母子関係の理論Ⅰ 愛着行動（Bowlby=1991：290-297）。

Ⅲ-2-②. 「微笑む」という発信行動に対する、乳児保育における愛着形成に関する支援

保育指針（厚生労働省2017b:17-23）において、「微笑む」という発信行動とかわりのある内容は「①子どもからの働きかけを踏まえた、応答的な触れ合いや言葉がけによって、欲求が満たされ、安定感をもって過ごす。」であった。

この内容に関して、保育指針解説（厚生労働省2018b:113）では、「目を見つめて微笑む」といった乳児からの働きかけが示されていた。これらに対し、保育者の援助として「子どもの気持ちを汲み取り、十分に受け止めながら、応答的に関わる」

「子どもの微笑みに目を合わせて優しく微笑み返す」といった応答的な触れ合いや言葉がけがあげられており、こうした保育者の援助によって乳児は、「大人の声ややり取りを心地よいものと感じるようになる」「次第に、声や表情での感情表現も豊かになり、積極的に保育士等との関わりを求めるようにもなる」「保育士等とのやり取りの心地よさが、人に対する基本的信頼感の育ちにもつながり、コミュニケーションの土台となる」という経験をし、欲求が満たされる安定感をもつことにつながるとされていた（表3）。

表3 「微笑む」という発信行動に対する、乳児保育における愛着形成に関する支援

愛着行動		乳児保育における愛着形成に関する支援		
行動	例	乳児の状況	保育者の関わり	保育者の関わりが乳児に及ぼす影響
発信行動	微笑む	・目を見つめて微笑む。	・子どもの気持ちを汲み取り、十分に受け止めながら、応答的に関わる。 ・子どもの微笑みに目を合わせて優しく微笑み返す。	・大人の声ややり取りを心地よいものと感じるようになる。 ・次第に、声や表情での感情表現も豊かになり、積極的に保育士等との関わりを求めるようにもなる。 ・保育士等とのやり取りの心地よさが、人に対する基本的信頼感の育ちにもつながり、コミュニケーションの土台となる。

筆者作成（資料）①保育指針解説（厚生労働省2018b 2018:113）、②母子関係の理論Ⅰ 愛着行動（Bowlby=1991:290-297）。

Ⅲ-2-③. 「声を出す」という発信行動に対する、乳児保育における愛着形成に関する支援

保育指針（厚生労働省2017b:17-23）において、「声を出す」という発信行動とかわりのある内容は「②体の動きや表情、発声、喃語等を優しく受け止めてもらい、保育士等とのやり取りを楽しむ。」「④保育士等による語りかけや歌いかけ、発声や喃語等への応答を通じて、言葉の理解や発語の意欲が育つ。」であった。

これらの内容に関して、保育指針解説（厚生労働省2018b:113）では、「声を出したりする」「自分の意思や欲求を、声や喃語で、伝えようとする」という発声、喃語が示されていた。これらに対し、保育者の援助として「喃語の語りかけに表情豊かに言葉で返す」というように優しく受け止めることがあげられており、こうした保育者の援助によって乳児は、「大人の声ややり取りを心

地よいものと感じるようになる」「次第に、声や表情での感情表現も豊かになり、積極的に保育士等との関わりを求めるようにもなる」「保育士等とのやり取りの心地よさが、人に対する基本的信頼感の育ちにもつながり、コミュニケーションの土台となる」という経験をし、保育士等とのやり取りを楽しむことにつながるとされていた（表4）。

また、保育指針解説（厚生労働省2018b:114）にて示された「言葉にならない思いや欲求を発声や喃語で表現する」という発声、喃語も、「声を出す」という発信行動にあたる。これらに対し、保育者の援助として「子どもの言葉にならない思いや欲求を発声や喃語などから汲み取り、それを言葉に置き換えながら対応する」といった発声や喃語等への応答があげられており、こうした保育者の援助によって乳児は、「自分の思いが受け止められる喜びと安心感、そして優しい言葉が返っ

てくるやり取りの心地よさを感じる」「保育士等に信頼感をもつようになり、伝えたい、分かってもらいたいという、表現することへの意欲を高めていく」「言葉にならない思いの意味と言葉の音

声とがつながりをもち、言葉を理解することにもつながっていく」という経験をし、言葉の理解や発語の意欲が育つことにつながるとされていた(表4)。

表4 「声を出す」という発信行動に対する、乳児保育における愛着形成に関する支援

愛着行動		乳児保育における愛着形成に関する支援		
行動	例	乳児の状況	保育者の関わり	保育者の関わりが乳児に及ぼす影響
発信行動	声を出す	・声を出したりする。	喃語の語りかけに表情豊かに言葉で返す。	・大人の声ややり取りを心地よいものと感じるようになる。 ・次第に、声や表情での感情表現も豊かになり、積極的に保育士等との関わりを求めるようになる。 ・保育士等とのやり取りの心地よさが、人に対する基本的信頼感の育ちにもつながり、コミュニケーションの土台となる。
		・自分の意思や欲求を、声や喃語で、伝えようとする。		
		・言葉にならない思いや欲求を発声や喃語で表現する。	子どもの言葉にならない思いや欲求を発声や喃語などから汲み取り、それを言葉に置き換えながら対応する。	・自分の思いが受け止められる喜びと安心感、そして優しい言葉が返ってくるやり取りの心地よさを感じる。 ・保育士等に信頼感をもつようになり、伝えたい、分かってもらいたいという、表現することへの意欲を高めていく。 ・言葉にならない思いの意味と言葉の音声とがつながりをもち、言葉を理解することにもつながっていく。

筆者作成(資料)①保育指針解説(厚生労働省2018b:113-114),②母子関係の理論I 愛着行動(Bowlby=1991:290-297)。

III-2-④. 「身振りを示す」という発信行動に対する、乳児保育における愛着形成に関する支援

保育指針(厚生労働省2017b:17-23)において、「身振りを示す」という発信行動とかかわりのある内容は「②体の動きや表情、発声、喃語等を優しく受け止めてもらい、保育士等とのやり取りを楽しむ。」であった。

この内容に関して、保育指針解説(厚生労働省2018b:113)では、「手足をバタバタと動かす」「自分の意思や欲求を、身振りなどで、伝えようとする」という体の動きが示されていた。これら

に対し、保育者の援助として「子どもの気持ちを汲み取り、十分に受け止めながら、応答的に関わる」というように優しく受け止めることがあげられており、こうした保育者の援助によって乳児は、「大人の声ややり取りを心地よいものと感じるようになる」「次第に、声や表情での感情表現も豊かになり、積極的に保育士等との関わりを求めるようになる」「保育士等とのやり取りの心地よさが、人に対する基本的信頼感の育ちにもつながり、コミュニケーションの土台となる」という経験をし、保育士等とのやり取りを楽しむことにつながるとされていた(表5)。

表5 「身振りを示す」という発信行動に対する、乳児保育における愛着形成に関する支援

愛着行動		乳児保育における愛着形成に関する支援		
行動	例	乳児の状況	保育者の関わり	保育者の関わりが乳児に及ぼす影響
発信行動	身振りを示す	・手足をバタバタと動かす。 ・自分の意思や欲求を、身振りなどで、伝えようとする。	子どもの気持ちを汲み取り、十分に受け止めながら、応答的に関わる。	・大人の声ややり取りを心地よいものと感じるようになる。 ・次第に、声や表情での感情表現も豊かになり、積極的に保育士等との関わりを求めるようになる。 ・保育士等とのやり取りの心地よさが、人に対する基本的信頼感の育ちにもつながり、コミュニケーションの土台となる。

筆者作成(資料)①保育指針解説(厚生労働省2018b:113),②母子関係の理論I 愛着行動(Bowlby=1991:290-297)。

Ⅲ-3. 接近行動に対する、乳児保育における愛着形成に関する支援

保育指針（厚生労働省2017b:17-23）において、「しがみつく」という接近行動とかかわりのある内容は「①子どもからの働きかけを踏まえた、応答的な触れ合いや言葉がけによって、欲求が満たされ、安定感をもって過ごす。」であった。

この内容に関して、保育指針解説（厚生労働省2018b:112）では、「自ら手を伸ばし、スキンシッ

プを求める」といった乳児からの働きかけが示されていた。これに対し、保育者の援助として「子どもの欲求を汲み取り、タイミングよく応えていく」「触れ合う（スキンシップ）」といった応答的な触れ合いや言葉がけがあげられており、こうした保育者の援助によって乳児は、「心の安定につながる」という経験をし、欲求が満たされる安定感をもつことにつながるとされていた（表6）。

表6 接近行動（しがみつく）に対する、乳児保育における愛着形成に関する支援

愛着行動		乳児保育における愛着形成に関する支援		
行動	例	乳児の状況	保育者の関わり	保育者の関わりが乳児に及ぼす影響
接近行動	しがみつく	・自ら手を伸ばし、スキンシップを求める。	・子どもの欲求を汲み取り、タイミングよく応えていく。 ・触れ合う（スキンシップ）。	・心の安定につながる。

筆者作成（資料）①保育指針解説（厚生労働省2018b:112）、②母子関係の理論Ⅰ 愛着行動（Bowlby=1991:290-297）。

Ⅳ. 考察

本研究は、より実践力のある保育者養成の一助となることをねらいとして、乳児保育における愛着形成に関する支援について検討することを目的とした。そこで、保育指針（厚生労働省2017b:17-23）及び保育指針解説（厚生労働省2018b:112-114）をもとに、ボウルビーが提唱した愛着行動（Bowlby=1991:290-297）との関係を整理した。

定位行動に対する、乳児保育における愛着形成に関する支援について、「目で追う」「声を聞いて声のした方を向く」という定位行動では、「ゆったりと笑顔で働きかける。」「触れ合う（スキンシップ）。」「子どもの声や行為に言葉を添えていく。」「タイミングよく応えていく。」という支援が示されており、これらの支援によって、乳児は「自分の欲求を泣き声で表すようになる。」「感情を込めて様々な泣き方をするようになる。」「自分のしてほしいことが受け止められ、心地よくかなえられると安心する。」「欲求をかなえてくれた人に対する信頼感が育まれる。」「心の安定につながる。」「肌の触れ合いの温かさや心地よさを実感できる。」

「自ら手を伸ばし、スキンシップを求めるようになる。」という経験をするとされていた。

発信行動に対する、乳児保育における愛着形成に関する支援について、まず、「泣く」という発信行動では、「子どもの欲求を汲み取り、タイミングよく応えていく。」「触れ合う（スキンシップ）。」という支援が示されており、これらの支援によって、乳児は「自分のしてほしいことが受け止められ、心地よくかなえられると安心する。」「欲求をかなえてくれた人に対する信頼感も育まれる。」「心の安定につながる。」「肌の触れ合いの温かさや心地よさを実感できる。」「自ら手を伸ばし、スキンシップを求めるようになる。」という経験をするとされていた。また、「泣く」という発信行動では、「愛情を込めて受容的に関わる。」という支援も示されており、この支援によって、乳児は「愛情を込めて受容的に関わる大人とのやり取りを盛んに楽しむようになり、そうした大人との間に形成された愛着関係が更に強まる。」「この絆を拠りどころとして、徐々に周囲の大人に働きかけていくようになる。」「特定の大人との安定した関係を基盤にして、次第に他の子どもに対しても関

心をもつようになる。」という経験をするとされていた。

次に、「微笑む」という発信行動では、「子どもの気持ちを汲み取り、十分に受け止めながら、応答的に関わる。」「子どもの微笑みに目を合わせて優しく微笑み返す。」という支援が示されており、これらの支援によって、乳児は「大人の声ややり取りを心地よいものと感じるようになる。」「次第に、声や表情での感情表現も豊かになり、積極的に保育士等との関わりを求めるようになる。」「保育士等とのやり取りの心地よさが、人に対する基本的信頼感の育ちにもつながり、コミュニケーションの土台となる。」という経験をするとされていた。

さらに、「声を出す」という発信行動では、「喃語の語りかけに表情豊かに言葉で返す。」という支援が示されており、この支援によって、乳児は「大人の声ややり取りを心地よいものと感じるようになる。」「次第に、声や表情での感情表現も豊かになり、積極的に保育士等との関わりを求めるようになる。」「保育士等とのやり取りの心地よさが、人に対する基本的信頼感の育ちにもつながり、コミュニケーションの土台となる。」という経験をするとされていた。また、「声を出す」という発信行動では、「子どもの言葉にならない思いや欲求を発声や喃語などから汲み取り、それを言葉に置き換えながら対応する。」という支援も示されており、この支援によって、乳児は「自分の思いが受け止められる喜びと安心感、そして優しい言葉が返ってくるやり取りの心地よさを感じる。」「保育士等に信頼感をもつようになり、伝えたい、分かってもらいたいという、表現することへの意欲を高めていく。」「言葉にならない思いの意味と言葉の音声とがつながりを持ち、言葉を理解することにもつながっていく。」という経験をするとされていた。

「身振りを示す」という発信行動では、「子どもの気持ちを汲み取り、十分に受け止めながら、

応答的に関わる。」という支援が示されており、この支援によって、乳児は「大人の声ややり取りを心地よいものと感じるようになる。」「次第に、声や表情での感情表現も豊かになり、積極的に保育士等との関わりを求めるようになる。」「保育士等とのやり取りの心地よさが、人に対する基本的信頼感の育ちにもつながり、コミュニケーションの土台となる。」という経験をするとされていた。

接近行動に対する、乳児保育における愛着形成に関する支援について、「しがみつく」という接近行動では、「子どもの欲求を汲み取り、タイミングよく応えていく。」「触れ合う（スキンシップ）。」という支援が示されており、これらの支援によって、乳児は「心の安定につながる。」という経験をするとされていた。

上記の保育者による支援と乳児による経験の積み重ねが、乳児保育における愛着形成につながると思われる。今回得られた乳児保育における愛着形成に関する支援の知見を保育者養成に還元していくことは、乳児と触れ合う経験が乏しいまま保育者となる学生が増えてきている中、乳児保育において未分化である発達の諸側面に配慮した援助、特に愛着形成に関する支援について学生が理解を深める一助になると考えられる。

注釈

- 1) 全国の保育所等の状況を把握することを目的に毎年実施している。
- 2) 平成27年度の調査から、従来の保育所に加え、平成27年4月に施行した子ども・子育て支援新制度において新たに位置づけられた幼保連携型認定こども園等の特定教育・保育施設と特定地域型保育事業（うち2号・3号認定）の数値を含んでいる。特定教育・保育施設とは、幼保連携型認定こども園、幼稚園型認定こども園及び地方裁量型認定こども園であり、特定地域型保育事業とは、小規模保育事業、家庭的保育事業、事業所内保育事業及び居宅訪問型保育事業である。
- 3) 保育所等利用率は、当該年齢の保育所等利用児童数÷当該年齢の就学前児童数によって求められている。
- 4) 保育所等関連状況取りまとめ（厚生労働省2015：厚生労働

省2016：厚生労働省2017：厚生労働省2018：厚生労働省2019)によると、年齢区分別の保育所等利用児童の割合(保育所等利用率)について、0歳児は、平成27年4月では127,562人(12.5%)、平成28年4月では137,107人(14.2%)、平成29年4月では146,972人(14.7%)、平成30年4月では149,948人(15.6%)、平成31年4月では152,780人(16.2%)と年々増加している。

文献

John Bowlby. (1982) Attachment and Loss, Vol.1 Attachment: The Tavistock Institute of Human Relations. (=1991, 黒田実郎・大羽葵・岡田洋子・黒田聖一訳『母子関係の理論 I 愛着行動』岩崎学術出版社.)

厚生労働省 (2015) 「保育所等関連状況取りまとめ (平成27年4月1日)」

(<https://www.mhlw.go.jp/file/04-Houdouhappyou-11907000-Koyoukintoujidoukateikyoku-Hoikuka/0000098603.pdf>, 2019.1.20)

厚生労働省 (2016) 「保育所等関連状況取りまとめ (平成28年4月1日)」

(https://www.mhlw.go.jp/file/04-Houdouhappyou-11907000-Koyoukintoujidoukateikyoku-Hoikuka/0000098603_2.pdf, 2019.1.20)

厚生労働省 (2017a) 「保育所等関連状況取りまとめ (平成29年4月1日)」

(<https://www.mhlw.go.jp/file/04-Houdouhappyou-11907000-Koyoukintoujidoukateikyoku-Hoikuka/0000176121.pdf>, 2019.1.20)

厚生労働省 (2017b) 「保育所保育指針」

(<https://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-11900000-Koyoukintoujidoukateikyoku/0000160000.pdf>, 2018.12.12)

厚生労働省 (2018a) 「保育所等関連状況取りまとめ (平成30年4月1日)」

(<https://www.mhlw.go.jp/content/11907000/000350592.pdf>, 2019.1.20)

厚生労働省 (2018b) 「保育所保育指針解説」

(<https://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-11900000-Koyoukintoujidoukateikyoku/0000202211.pdf>, 2019.12.3)

厚生労働省 (2019) 「保育所等関連状況取りまとめ (平成31年4月1日)」

(<https://www.mhlw.go.jp/content/11907000/000544879.pdf>, 2019.1.20)

小屋美香 (2010) 「保育実習中の学生の乳児保育体験に関する研究」『育英短期大学研究紀要』27, 33-44.

The support for the development of attachment in infant care based on the Nursery care guidelines (Ministry of Health, Labour and Welfare Notification No. 117, 2017)

INOUE yuko

In this study, it's aimed to organize the involvement of infant care and attachment behavior advocated by Bowlby, and consider support for the development of attachment in infant care.

The method was a literature study on Nursery care guidelines (Ministry of Health, Labour and Welfare Notification No. 117, 2017), and the commentary on Nursery care guidelines.

As a result, it was discovered the involvement of infant care and “orientational behavior”, “signaling behavior”, and “approach behavior”, which are attachment behaviors during infancy as support for the development of attachment in infant care.

The above results suggest that students studying in designated nursery teacher training facilities may help to deepen their understanding of support for the development of attachment in infant care.

Key words : Nursery care guidelines (Ministry of Health, Labour and Welfare Notification No. 117, 2017), the commentary on Nursery care guidelines, attachment behavior, infant care, the development of attachment